

第4編 成果と課題

【目次】

第1章	沼田市教育行政方針評価（学校教育）	137
第2章	第12次教育水準向上研究＜第3年次＞の成果と課題	142
	令和4年度の研究指定等	143
編集後記		143

令和4年度沼田市教育行政方針評価（学校教育）

【評価について】	
1 評価者（全120名）	○各小中学校6名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表2名） ○各幼稚園3名（園長・職員代表2名）
2 評価項目	○全44項目（沼田市教育行政方針「重点施策1」について）
3 評価方法	○自校・園の取組について「実現度」による評価 （4：できている 3：おおむねできている 2：あまりできていない 1：できていない）
4 評価平均について	太字…3.4以上 網掛け…3.0未満 青字（下線）…前年度より上昇したもの

1. 「重点施策1」について

(1) 学校(幼稚園)経営の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化と各主任を中心とした全校的な組織体制の確立	3.67	68.3%	31.0%	0.0%	0.8%
イ	子どもを守り育てる実効的な危機管理体制の充実（「セイフティ沼田」※）	3.63	63.5%	36.5%	0.0%	0.0%
ウ	ガイドラインを踏まえた働き方改革に向けた労務管理体制の整備と具体的な取組の推進	3.26	32.5%	61.1%	6.3%	0.0%
エ	学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実（幼小中連携※）	3.19	25.4%	68.3%	6.3%	0.0%
オ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進とカリキュラムマネジメントの充実	3.48	48.4%	51.6%	0.0%	0.0%
カ	自校園の喫緊の教育課題解決に向けた校内(園内)研修の計画的な実施	3.60	62.7%	34.9%	2.4%	0.0%
キ	信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保	3.74	73.8%	26.2%	0.0%	0.0%
考察	<p>昨年度と同様に7項目中5項目の評価平均が3.4以上であり、4項目で昨年度から平均値が上昇している。特に「キ」は昨年度も高い値であったがさらに上昇していることから、各学校園が「信頼される学校」を目指して、教職員の資質向上や服務規律の確保に力を入れていることがうかがえる。また、引き続き、各学校園の校長・園長がリーダーシップを発揮して明確な経営方針を具体的に示し、各主任が中心となった組織的な取組を推進することができた。「ウ」についても評価平均が大きく上昇しており、今後も働き方改革に向けた労務管理体制の整備や具体的な取組を着実に進めていくことが大切である。「エ」については、コロナ禍において、3年ぶりに参集型で「幼保こ小関連教育推進事業研究会」を開催することができ、保育参観を通して幼児教育と小学校教育の関係者が意見交流、情報共有を行うことができた。学びの連続性をさらに意識し、連携を深めていくことが大切である。</p>					

(2) 家庭や地域社会、関係機関等との連携・協働

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の編成・実施・評価（「社会に開かれた教育課程」の実現）	3.47	48.4%	50.8%	0.0%	0.8%
イ	各種教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用	3.40	41.3%	57.1%	1.6%	0.0%
ウ	不登校や問題行動、貧困問題などの生徒指導や特別支援教育等において、専門性をもった関係機関との連携や組織的・協働的な課題の解決	3.47	48.4%	50.0%	1.6%	0.0%

考察	<p>全ての項目で昨年度より評価平均が上昇し、かつ3.4以上であり、高い評価が得られた。特に「イ」については大きく上昇し、コロナ禍で自粛せざるをえなかった地域との交流を再開できた学校も多かった。コロナ禍においても感染症対策を講じることで、昨年度までは難しかった外部との交流を含めた様々な活動が可能となったことが大きいと考えられる。「ウ」についても、SC、SSW、自立支援アドバイザーや、関係機関などから専門的な助言を得るなど、各学校園ともに積極的な連携、課題解決に向けた組織的な対応を継続できている様子がうかがえる。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 社会の変化に対応する教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の充実(キャリア・パスポートの活用)	3.15	23.2%	68.8%	8.0%	0.0%
イ	郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、郷土愛をはぐくみながら地域を誇りに思う教育の推進(「沼田大好き」ふるさと学習の推進※)	3.29	31.7%	65.1%	3.2%	0.0%
ウ	新たな英語教育の在り方を踏まえ、小学校から中学校への学びの連続性や指導の系統性を意識した、外国語活動及び英語科授業の推進	3.38	45.0%	47.5%	7.5%	0.0%
エ	環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続	3.09	18.3%	72.2%	9.5%	0.0%
考察	<p>「イ」については、評価平均が昨年度から上昇した。(2)と同様に、コロナ禍においても感染症対策を講じることで、昨年度までは難しかった外部との交流が可能となったことが大きいと考える。地域との交流が増えて効果的だった旨の自由記述も多くあった。「ア」と「ウ」については、昨年度とほぼ同程度であり、「エ」については評価平均が0.1ポイント下降した。いずれも「2」の割合がやや多いため、全教職員の共通理解の下、各学校園の実情に応じた取組を推進していく必要がある。</p>					

(4) 確かな学力の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.47	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%
イ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実	3.52	51.7%	48.3%	0.0%	0.0%
ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実	3.32	33.3%	65.0%	1.7%	0.0%
エ	1人1台学習者用コンピュータなどのICT環境を効果的に活用した学習活動の工夫	3.58	57.5%	42.5%	0.0%	0.0%
オ	学力検査等の分析や日常的確かな実態把握の基、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実	3.43	44.2%	54.2%	1.7%	0.0%
カ	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫と保護者との連携	3.22	25.0%	71.7%	3.3%	0.0%
考察	<p>昨年度も全体的に評価が高かったが、今年度はさらに評価平均が上昇し、3.4以上の項目も1つ増えて4つとなった。特に「エ」の評価平均が大きく上昇し、1人1台学習者用コンピュータなどのICT環境の活用について、各学校において昨年度以上に積極的な研修や活用がなされたことが、多くの自由記述からもうかがえる。また、単元構想や授業づくり、個に応じた指導など、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組を各学校が工夫して、組織的に推進している。「カ」については昨年度と同程度の評価であり、授業と連動させた課題の提示や、ICTの活用など、各学校の実情に応じた家庭学習を発達段階に応じて工夫する必要がある。</p>					

(5)豊かな心の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	3.42	43.7%	54.8%	1.6%	0.0%
イ	「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫	3.25	27.5%	70.0%	2.5%	0.0%
ウ	「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通じた組織的な人権教育の推進	3.42	42.9%	56.3%	0.8%	0.0%
エ	体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進	3.34	37.3%	59.5%	3.2%	0.0%
オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.13	17.5%	77.5%	5.0%	0.0%
カ	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実(「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用)(「児童生徒の命を守り、育てる教育」※)	3.40	40.5%	59.5%	0.0%	0.0%
キ	いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	3.70	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
考察	<p>全ての項目の評価平均が昨年度よりも上昇し、3.4以上も2つ増えて4つになるなど、高い評価が得られた。特に「キ」が非常に高く、各学校が児童生徒主体のいじめ防止活動を充実させていることや成果が得られていることは、多くの自由記述からもうかがえる。また、SOSの出し方教育に関する実践が充実してきている旨の自由記述も多くあった。道徳科の授業改善も各学校で引き続き進められている。「オ」については、8割弱が「3」の評価であり、学級活動の授業改善を含めた特別活動の充実を引き続き推進していくことが大切である。</p>					

(6)健やかな体の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	3.74	73.8%	26.2%	0.0%	0.0%
イ	栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実	2.94	17.5%	61.9%	18.3%	2.4%
ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.44	46.8%	50.8%	2.4%	0.0%
エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と効果的な休養日の設定(教育部活※)	3.80	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
オ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.40	42.9%	54.8%	2.4%	0.0%
考察	<p>全ての項目で評価平均が昨年度を上回り、「イ」以外の項目は3.4以上と高い評価が得られた。子どもの心身の健康の保持増進や、実効的な安全教育の推進が図られていることが、それらに関する自由記述の多さからもうかがえる。「ア」の感染症対策については、引き続き教職員の共通理解の下、徹底した取組がなされたことで、教育・保育活動を継続することができた。「エ」についても引き続き非常に高い評価となり、部活動の適切な実施が定着しつつある。「イ」については、依然コロナ禍において栄養教諭の活用が難しかった様子がうかがえる。一方で、栄養教諭を講師として学校保健委員会を開催したり、給食センターと連携したりした好事例もあった。感染症拡大の状況を注視しつつ、栄養教諭等を活用した食育の推進について積極的に検討していく必要がある。</p>					

(7) 生徒指導の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	日々の授業や行事など学校生活全体における、生徒指導の3つの機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした指導・支援	3.60	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
イ	いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底	3.66	66.4%	32.8%	0.8%	0.0%
ウ	不登校の未然防止や不登校傾向児童生徒への初期対応の徹底と教育相談活動の充実	3.54	55.2%	44.0%	0.8%	0.0%
エ	インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進(「沼田市SNSルール」※)	3.43	46.4%	50.4%	3.2%	0.0%
考察	<p>昨年度も全体的に評価が高かったが、今年度はさらに評価平均が上昇し、全ての項目で3.4以上となった。生徒指導の3つの機能を生かした指導・支援や、管理職や生徒指導主事・主任を中心とした全教職員による組織的な対応が推進され、その成果に関する自由記述が多くあった。外部機関との連携により、不登校児童生徒への効果的な支援が行えた例も見られた。一方で、不登校児童生徒の増加傾向は全国的な課題であり、引き続き未然防止や児童生徒、保護者に寄り添った対応を継続していく必要がある。また、「エ」については、外部機関と連携した情報モラル講習会の実施や、児童生徒が主体となったSNSルールの見直し・改善、家庭との連携などの事例が挙がっており、引き続き各学校の実情に応じた具体的な取組を進めていく。</p>					

(8) 特別支援教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内特別支援体制の強化と交流及び共同学習の推進	3.45	50.0%	45.2%	4.8%	0.0%
イ	個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実	3.43	46.8%	49.2%	4.0%	0.0%
ウ	通常学級における気になる子どもに対する指導の工夫と適切な対応	3.36	38.3%	59.2%	2.5%	0.0%
考察	<p>全項目が昨年度とほぼ同等であり、比較的高い評価となった。特別支援教育コーディネーターを核として、全教職員で共通理解を図ると共に、校内教育支援委員会の計画的な実施や必要に応じたケース会議の開催、外部機関との連携など、特別支援教育の充実が引き続き図られている。一方、特別な支援が必要な子どもは増加傾向にあり、支援の在り方や支援体制の工夫、環境整備などについて考えていく必要がある。</p>					

(9) 読書活動の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学校や家庭における読書習慣づくりの推進及び読書活動の充実(「家族で本を読みましょう」※)	3.21	31.7%	57.1%	11.1%	0.0%
イ	図書資料を利活用した学習活動を充実させるための学校図書館の環境整備と沼田市立図書館との連携	3.02	23.8%	54.8%	20.6%	0.8%
考察	<p>2項目とも、評価平均は昨年度とほぼ同等であるが、「2」の評価については増えている。「ア」の読書活動の充実や学校図書館の環境整備については、児童生徒による啓発活動や、読書の機会を増やすための全校的な取組、読書に親しみやすくする環境づくり、家庭との連携など、各学校園において創意工夫がなされている。子どもの読書習慣には個人差や校種間差が見られるが、各学校園の実情に応じた読書の機会を生み出す取組の継続が望まれる。沼田市立図書館との連携については、移動図書館を積極的に利用したり、沼田図書館の読書通帳を活用したりしている学校も見られた。</p>					

(10) 教育研究所の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	第12次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進	3.33	35.0%	64.2%	0.0%	0.8%
イ	不登校や障害等、発達課題を抱える子どもやその保護者に対する教育相談の推進と関係機関との連携	3.42	42.4%	57.6%	0.0%	0.0%
ウ	「教育支援センター(適応指導教室)きずな」・「ことばの教室」における各校園との連携を生かした組織的かつ継続的な支援体制の確立	3.45	49.3%	46.4%	4.3%	0.0%
考察	<p>昨年度から引き続き、全項目において比較的高い評価が得られた。「ア」の班別研究については、教師の資質向上についてよい機会となっているという自由記述が多く見られた。研究の成果については、成果発表会や市webページで公表し、本市の教育水準の向上に資することができるようにしている。「きずな」や「ことばの教室」については、学校との連携により、子どもや保護者の支援が充実すると共に、学校にとっても大きな力となっていることが自由記述からもうかがえる。また、今年度よりリモート(オンライン)による支援も開始するなど、選択肢が増えたことにより、今後の一層の連携が期待される。</p>					

(参考) 評価平均の推移

教育行政方針(評価の観点)	年次毎の評価平均			
	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
基本方針1(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)				
一人一人のよさを大切にし、社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもを育てるために、「第12次沼田市教育水準向上研究」を中心に、家庭・地域社会との連携を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。	3.32	3.38	3.41	

第12次沼田市教育水準向上研究（第3年次）の成果と課題

1 評価結果

領域	No.	学校教育の重点	評価平均	評価の割合			
				4	3	2	1
確かな学力	ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.47	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%
	イ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実	3.52	51.7%	48.3%	0.0%	0.0%
	ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実	3.32	33.3%	65.0%	1.7%	0.0%
豊かな心	エ	「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫	3.25	27.5%	70.0%	2.5%	0.0%
	オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.13	17.5%	77.5%	5.0%	0.0%
	カ	いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	3.70	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
健康な体	キ	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	3.74	73.8%	26.2%	0.0%	0.0%
	ク	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.44	46.8%	50.8%	2.4%	0.0%
	ケ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.40	42.9%	54.8%	2.4%	0.0%

2 結果の考察

(1) 確かな学力

昨年度も全体的に評価が高かったが、今年度はさらに評価平均が上昇しており、学力向上に向けた取組が充実していることがうかがえる。校内研修主任や学力向上コーディネーターが核となり、組織的・計画的な研修や取組が引き続き進められている。また、単元や題材の構想、めあてと見通し、学びの振り返りを意識した授業づくりが定着しつつある。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実への意識も高まっている。これらを背景としつつ、1人1台学習者用コンピュータなどのICT環境の活用について、各学校において昨年度以上に積極的な研修や取組がなされ、各教科等の学びの本質に迫るための授業改善が図られたことも大きな成果である。児童生徒自身によるICT活用の頻度も増えたため、情報活用能力の育成にもつながっている。

(2) 豊かな心

全ての項目で評価平均が昨年度よりも上昇した。特に「カ」の評価が非常に高く、各学校が児童生徒主体のいじめ防止活動を重視していることが自由記述からもうかがえる。いじめ防止子ども会議でも、各校の創意工夫をこらしたいじめ防止活動の様子について、児童生徒から報告がなされた。「エ」については、「2」の割合が昨年度よりも減っており、ローテーション道徳や全校・学年道徳など、教職員同士での研鑽や協力により「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けて取り組んでいる報告もあった。「オ」については、8割弱が「3」の評価であり、学級活動の授業改善を含めた特別活動の充実を引き続き推進していく必要がある。

(3) 健康な体

昨年度も全体的に評価が高かったが、今年度はさらに評価平均が上昇しており、各主任が中心となり組織的な取組が進められていることがうかがえる。特に「キ」の評価が非常に高く、引き続き教職員の共通理解の下、徹底した取組がなされたことで、教育・保育活動を継続することができた。体力向上に関しては、教科体育の充実とともに、業間の時間を生かした運動の機会づくり、運動したくなる環境づくり、家庭との連携、運動（遊び）と生活習慣の両面からのアプローチなど、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされ、成果を上げている。安全教育については、予告なしの避難訓練の実施や、危険の予測・回避についての直接的な指導を行っている学校もある。子どもの危険予測と危険回避能力の向上を意識した体験的な取組をさらに推進していくことが大切である。

令和4年度の研究指定等

指定・委託元及び年度	事業名	学校名等
令和3～4年度 群馬県教育委員会	「チーム学校」に関わる事務職員特配	沼田東小学校
令和4年度 群馬県教育委員会	ぐんまの子どもの体力向上推進事業	沼田北小学校
令和4年度 群馬県教育委員会	I C T活用促進プロジェクト実践推進校	沼田小学校

編 集 後 記

本年度も、多くの皆様に御協力いただき、本研究紀要を完成させることができました。

各研究部会の取組、小中学校・幼稚園の校内・園内研修や教育水準向上授業研究会等の成果について改めて拝見すると、コロナ禍にあっても先生方が日々研鑽に励み、子どもたちのために力を注がれている様子がよく伝わってまいります。また、上記のように、本年度も研究指定等の事業が行われ、目指す子どもの育成に向けて、学校全体で様々な取組が実践されました。各学校園での取組には、多くの工夫とともに子どもの変容が記されており、日々の実践が成果として表れていることが分かります。

本年度は第12次沼田市教育水準向上研究の3年次でしたが、本研究の主題である「社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもの育成」に向けて、沼田市の先生方で学校教育の重点を共有し、一丸となって取り組むことができました。

学校園を訪問させていただくと、長期化するコロナ禍にあっても、明るい表情で友達や先生と関わり、生き生きと学ぶ子どもたちの姿がありました。また、授業では、本格的な運用から2年目となった1人1台学習者用コンピュータを使ったり、思いや考えを伝え合ったりしながら、よりよく問題を解決しようとする姿がありました。そして、子どもたちに真摯に向き合い、学びを支える先生方のご努力と大きな力を実感いたしました。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各幼稚園・小中学校の皆様、研究計画の作成・評価に貴重な御意見をくださった研究推進委員会の方々、御指導・御協力いただきました利根教育事務所をはじめとする関係各方面の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます、編集のまとめといたします。

令和5年3月 吉日
沼田市教育委員会
指導主事 田島 晃代

*本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL (<https://www.city.numata.gunma.jp/>)